

日本国憲法の授業における新聞活用の実践と効果 —憲法改正の内容を事例として—

Practice and the Effect of Newspaper Utilization
in the Class of the Constitution of Japan
—The Contents of an Amendment to the Constitution as a Case—

菊 地 達 夫
Tatsuo KIKUCHI

I はじめに

現在、集团的自衛権の議論、18歳選挙権の引き下げ、教育の無償化などといった政治的内容は、少しずつではあるが、その時々で興味関心の的になっている。こうした政治的内容は、学校教育における社会系教科の内容の他に、インターネット・テレビニュース、新聞といった情報媒体を通じ、知り得ている可能性が高い。

そこで、筆者は、社会系科目の授業に、内容理解の教材の一つとして、新聞記事を用いている。例えば、菊地（2017）では、教員養成課程における日本国憲法の授業において、18歳選挙権に関する新聞記事を活用し、多角的な効果を得た。その後、選挙に対して、自分事として受け止め、興味関心を高めたことを確認できた。結果、授業内容の理解に、新聞記事の活用が一定の効果があることを実証できた。

教員養成課程における新聞活用に関する先行研究については、菊地（2017）や菊地・高橋（2016）でその一部に触れた。その多くは、新聞活用することで、学習理解・学習意欲が高まるといった点を明らかにしている。他方、橋本（2012）では、教員養成課程における新聞活用の重要性は認めつつも、そもそも記事の内容を理解できない学生がいる点に触れている。また、徳田・前田（2011）では、教員養成課程における新聞活用の重要性として、学習指導要領（教育要領）や教科書における「新聞」の文言が、多々表出している点を指摘している。そのため、小学校以上の場合、学校図書館司書教諭の役割が重要になると考え、司書教諭の養成課程において、新聞活用したモデルカリキュラムの授業開発を行い、検証した。

ただ、これまでの研究成果の多くは、単発の記事を取り扱ったもの、複数の新聞記事を比較検討させるものであった。発表時期が異なる類似の時事的なものを取り上げ、それらの関係性などを考察させるといった、より深い学びにつながる新聞活用の実践は、あまり確認できない。

そこで、本稿では、その新聞記事の活用効果を検証する続編として、「憲法改正」に関する内容を取り上げ、関係性を重視した新聞活用の授業を開発し、より深い学びの効果を得ることができたか、明らかにする。具体的には、発表時期の異なる3記事を用いて、情報の比較、関

係性を判断し、それらの展開や変化の背景・構造の理解を目指す。授業展開では、まず、授業の目的や手法を説明し、その後、個人活動として記事の読解・記録、それをもとにグループ活動によって情報共有・交換を行い、最後に補足解説を経て学習理解・効果を確認した。

憲法改正については、直前の安倍内閣（10月時点）において、首相自ら、たびたび発言してきた。他方、2017年10月の衆議院議員総選挙の遊説では、安倍首相の口から、その話題に触れることは少なかったと言われている。よって、取り上げる新聞記事の内容として適切と判断した。

なお、本稿の内容は、2017年7月の「日本国憲法」授業（短期大学部1年生）で実施したものである。

II 新聞活用の視点と教材内容

本章では、今回の授業による新聞活用の視点とその教材（新聞記事）の概要について述べる。まず、新聞活用の視点は、憲法改正に関する発表時期の異なる内容を選び、並べ比較したり、関係性（つながり）を判断したりしながら、それらの展開や変化といった背景・構造を理解させようとするものである。具体的には、憲法改正に関する内容の理解に留まるのではなく、それを突き動かす社会的・政治的背景の影響に気付かせることを重視している。

選択した記事内容は、2017年5月発表、6月発表、7月発表といった連続性に配慮した。また、5月3日は、憲法記念日（日本国憲法施行）で、今年は施行70年の節目でもあった。よって、憲法改正の内容を取り上げる時期として、妥当であったものと判断できる。

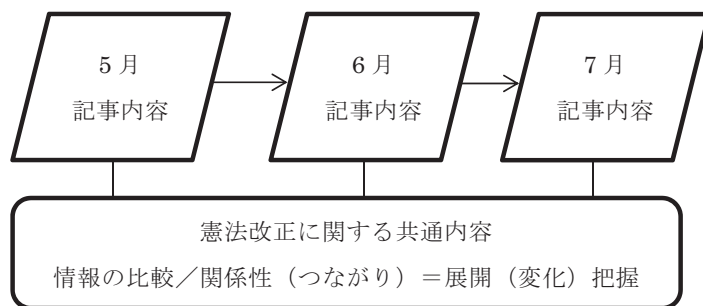


図1 授業研究における新聞活用の視点

すでに述べたように、地方新聞の3記事を用いた。①の記事は、5月4日発表したものであり、前日（5月3日）に実施した改正憲法施行を2020年に目指すという内容に触れたものである。②の記事は、6月25日発表したものであり、自民党の憲法改正案および提出時期に触れたものである。③の記事は、7月3日発表したものであり、東京都議会議員選挙結果（7月2日実施）、自民党公認候補者が大敗した様子を伝え、今後の憲法改正議論は当然の事、政権運営にも影響があるだろうといった内容に触れたものである。

①北海道新聞記事2017年5月4日付「改憲20年施行目指す」要約

安倍晋三首相は現行憲法が施行70年を迎えた3日、憲法改正を目指す民間団体の会合に送ったビデオメッセージで「2020年を新しい憲法が施行される年にしたい」と述べ、国会の発議と国民投票を経た上で20年の改正憲法施行を目指す意向を表明した。具体的な改正項目として9条を挙げ、現行の1項と2項を残しつつ自衛隊の存在を憲法上に明記すべきだと考えを示した。首相は自民党総裁任期の延長を踏まえ、21年までの続投を視野に入れており、在任中の改憲実現へ具体像を踏み込んだ。

②北海道新聞記事2017年6月25日付「自民党改憲案 秋に提出」要約

安倍晋三首相（自民党総裁）は24日、神戸市内のホテルで講演し、自民党の憲法改正案について「来るべき臨時国会が終わる前に、衆参の憲法審査会に提出したい」と述べ、今年秋に想定される臨時国会への提出を目指す意向を表明した。日本と欧州連合（EU）の経済連携協定（EPA）について、7月の大枠合意を目指す考えも示した。

③北海道新聞記事2017年7月3日付「都議選 自民惜敗 改憲議論 停滞の可能性」要約

各党が総力戦を展開した東京都議選で自民党が歴史的な惨敗を喫し、磐石を誇ってきた安倍晋三首相の政権基盤は大きく揺らいだ。首相は内閣改造・自民党役員人事の早期実施による体制の立て直しも視野に入れるが、憲法改正など政権運営への影響は免れられず、「安倍1強」の政治状況が変わる潮目となる可能性がある。民進党も低迷し、蓮舫執行部は一層の弱体化が必至。小池百合子都知事が国政で存在感を強めて野党再編につながる展開も想定され、正局は流動化の様相を帯びてきた。

Ⅲ 授業の全体構造と展開

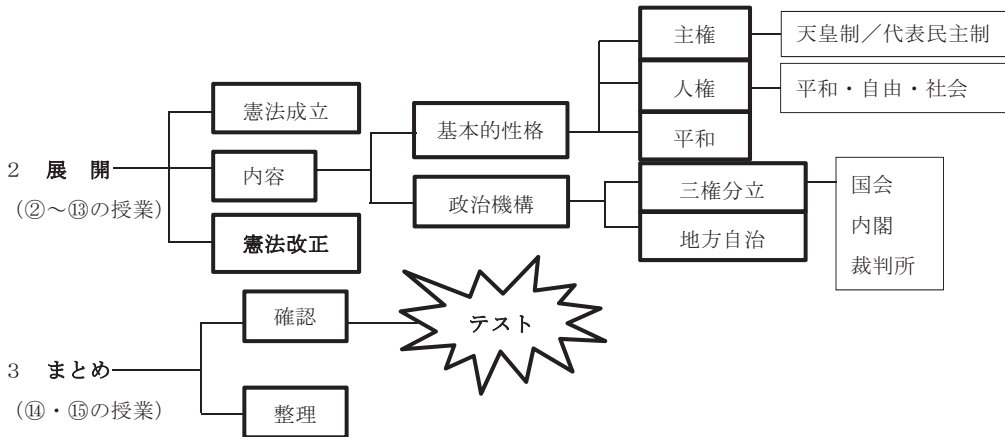
1 全体的な位置付け

日本国憲法の授業は、導入、展開、まとめの3段階としている。展開は、憲法成立、憲法の内容、憲法改正にわけている。憲法の内容は、基本的性格として、主権、人権、平和を取り上げた。政治機構は、三権分立の詳細として国会、内容、裁判所を行い、別に地方自治を取り上げた。

憲法改正の授業は、13回目であり、発展的・応用的な性格が強い。関係条文（憲法改正）は、第96条にあり、「憲法の改正は、各議院の総議員の三分の二以上の賛成で、国会が、これを発議し、国民に提案してその承認を経なければならない。この承認には、特別の国民投票又は国会の定める選挙の際行はれる投票において、その過半数の賛成を必要とする。」となっている。

【日本国憲法授業の全体構造】①～⑮の授業

1 導入 授業のガイダンス（目標、展開、評価、文献紹介など）



2 授業研究の展開

授業の展開は、導入において、主に授業の目的・関係条文の確認を行い、展開において、3記事の読解とワークシートへの記録、その記録をもとにした情報共有・交換及び記録を3名以内のグループ活動として実施した。まとめとして、記事内容に関する補足解説を行い、授業の理解と新聞活用の効果について確認した。

【展開順】

- 1 授業目的の説明（教員）
- 2 新聞記事3紙の読解（学生個人活動）
- 3 読み取った事実の記入（学生個人活動）
- 4 情報共有・交換（3人以内／学生グループ活動）
- 5 記事内容の補足解説（教員）
- 6 憲法改正についてわかったことを記入（学生個人活動）
- 7 3記事の学習効果について記入（授業方法，教材に関する感想・意見）（学生個人活動）

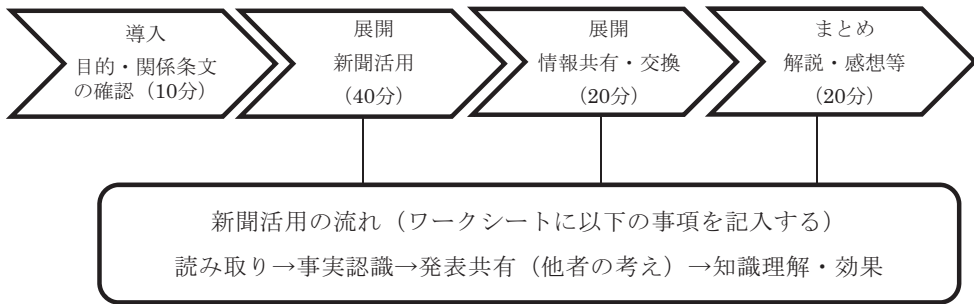


図2 新聞活用の授業展開・構造

第13回 (月 日)

日本国憲法

憲法改正 (NIE 活動＝新聞活用教育)

学科

学年

組 番号

氏名

*本紙 (学習記録) は、調査研究資料として活用します (原則、未返却となります)。

活用にあたり、氏名等の公表はありません。ただし、記載内容は成績評価の対象となります。

●目的

新聞記事内容を通じて、憲法改正の動き等を理解できる。

日本国憲法第96条 憲法改正

この憲法の改正は、各議院の総議員の三分の二以上の賛成で、国会が、これを発議し、国民に提案してその承認を経なければならない。この承認には、特別の国民投票又は国会の定める選挙の際行はれる投票において、その過半数の賛成を必要とする。

【新聞記事資料 (3点/北海道新聞)】

- ① 2017年5月4日付「改憲20年施行目指す」
- ② 2017年6月25日付「自民改憲案 秋に提出」
- ③ 2017年7月3日付「都議選 自民惜敗 改憲議論 停滞の可能性」

課題1 新聞記事内容を読み、個人、情報共有を通じて、わかったこと（読み取ったこと）を書きましょう。

【個人編】

① 学生への配布時、記入欄は、大きく設定している。
②
③

【情報共有・意見交換（自分を含め3人以内）】

他の人の氏名などを書きましょう。 ・ 番号 氏名 ・ 番号 氏名
①
②
③

課題2 記事全体（3紙をすべて）を通じて、自分の立場を示した上で、憲法改正に関して、わかったこと（再認識を含む）を書きなさい。

憲法改正に 【 賛成 反対 】 です（自分の立場）。

課題3 今回、憲法改正の動向を理解するために、新聞記事3紙を用いました。その学習効果について、自分の考えを書きなさい。

図3 授業時に使用したワークシートの内容

IV 授業研究の学習理解・効果

本章では、ワークシートの学習記録をもとに、憲法改正に関する授業理解、新聞活用の学習効果について述べる。

1 学習理解

グループにおける意見共有・交換後、3記事内容に対する補足として、社会的背景や政治的思惑を交え説明した。その上で、憲法改正について自分の立場として、理由を添えて賛成、反対のいずれかを示し、書くよう指示した。

具体的には、「賛成」の立場が44%、「反対」の立場が53%、「不明」3%という結果となり、やや「反対」が上回った。「賛成」の立場の理由として、憲法における自衛隊の位置付けの明確化、日本周辺国の有事への不安、東京五輪といった節目を利用する転換などの意見が挙げられた。「反対」の立場の理由として、紛争に巻き込まれるリスクの危険性、憲法改正に関する議論不足、過去の過ち（戦争）を繰り返す危険性、親世代や祖父母世代が戦争放棄を守ってきた意味の尊重などの意見が挙げられた。

よって、賛否に関係なく、憲法改正の意味・重みを理解した上で、自分の考えを示し判断したものと解釈できる。

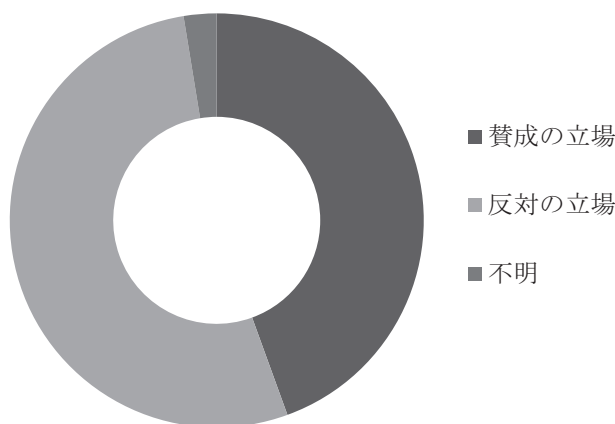


図4 憲法改正についての自分の立場
資料) 授業ワークシート。

表1 憲法改正についての自分の立場／その理由（例）

<p>【賛成の立場】</p> <p>意見1 身近に自衛隊の人がいて、合憲か違憲か、どちらかはっきりしてほしいと思うから。</p>
<p>意見2 日本の近隣国で核開発がすすんでいるので、自国を守るようにした方がよい。</p>
<p>意見3 日本は今まで一度も憲法改正を行ったことがないため、2020年をきっかけに新しい年を目指すという意向はよいのではと思った。</p>
<p>【反対の立場】</p> <p>意見1 結局、自衛隊を合憲にすることで日本が争いに巻き込まれるリスクが高まり、戦争への道にすすむだけだと思う。</p>
<p>事例2 改憲することをそんなに早く決めることはないと思った。自衛隊が戦争に行ったりしてしまうことになるのであれば、今後の日本は70年守ってきた戦争放棄が無くなってしまわないかと思った。</p>
<p>事例3 戦争放棄や戦力不保持を長く言ってきたのは過去に大きな戦争をして敗けて反省がたくさんあったからだと思うし、改正してしまうと、また同じことを繰り返してしまうと考えるから。</p>
<p>事例4 自分の親や祖父母の世代が守ってきたものを自分たちもしっかり守っていくべきだと思った。</p>

資料) 授業ワークシート。

2 学習効果

ここでは、3記事を用いた学習効果について述べる。受講者は、学習効果として、内容の流れ（時系列）、変化、関係性（つながり）といった理解に有効だったと指摘している。また、全体を俯瞰した上での共通点の気付き、過去の情報をふまえた事実認識の深化に有効だったことも指摘されている。

よって、いずれも単発の記事からは理解しにくい情報を、十分補完することに役立つものと解釈できる。その理由として、関連する内容を並べたことにある。加え、その情報に連続性があった点も有効に働いたものと考えられる。

表2 3記事を用いた学習効果の感想・意見について（例）

<p>事例1 流れがわかりやすく、とてもいいと思った。パッと見ると話題のつながりがわからなくても、記事を読むと一つの大きな流れを確認できた。</p>
<p>事例2 古い新聞からみていくことで時系列にのっとった変化を比較することができてより深く内容を理解できた。</p>
<p>事例3 新聞記事を3紙用いることで憲法改正についての意向が、どのように移り変わっているかがわかりました。 新聞を用いて重要な部分を抜き出すという作業があり、考えを深めるきっかけとなった。</p>

<p>事例 4 複数の新聞記事を使うことでそのつながりや書いている情報を得ることができると思います。</p>
<p>事例 5 時系列に読んでいったので、その人の心情や内容について変化がわかりやすく読み取ることができた。</p>
<p>事例 6 新聞の3つの記事を使うことで、共通点を見つけることができ大切な部分がわかる。また、それに関わる情報が書いてあるので理解を深めることができる。</p>
<p>事例 7 同一の内容を追っていくには、新聞がわかりやすいと思った。</p>
<p>事例 8 どうい内容でどういう流れでいまでやってきたのかが3つの記事を見てわかった。1つの記事だと過去にあったことのみが取り上げられ、わからないことが多いと思った。関連した記事を毎日読むことの大切さを学びました。</p>

資料) 授業ワークシート。

V おわりに

本稿の目的は、日本国憲法の受講生が、憲法改正に関する3つの新聞記事を活用して、どのような学習効果を得たのか明らかにすることであった。すでに述べたように、授業展開は、記事の読解・記録、情報共有・交換を行い、補足解説を経て、授業理解と学習効果を確認した。

その結果、憲法改正に関する自分の立場では、やや「反対」が多かった。賛否を示した理由をみる限り、概ね憲法改正の意味・重みは、理解したものと判断できる。続いて、3記事を用いた学習効果については、高い評価を得た。その理由として、記事を時系列に並べることで、社会的・政治的背景へ気付きを与え、関係性のつながりを浮き彫りとした。結果、憲法改正に関する動向について、その変化や構造を理解することにつながったものと考えられる。一方、情報量の多さや関係性を判断する難しさを指摘する意見があり、今回の新聞活用が全面的に支持されたわけではない。

今後の課題は、こうした関連する新聞記事を効果的に収集し、活用できるかということがあある。とくに継続的活用という点では、担当者の負担も大きい。その解決として、受講者に課題として、その手の新聞記事を収集させるという方法があろう。このような試みによって、多様な場面で新聞活用できる可能性が広がる。

機会をみて、課題提示・工夫や授業開発を行いながら、効果的な新聞活用の方法を引き続き検討していきたい。

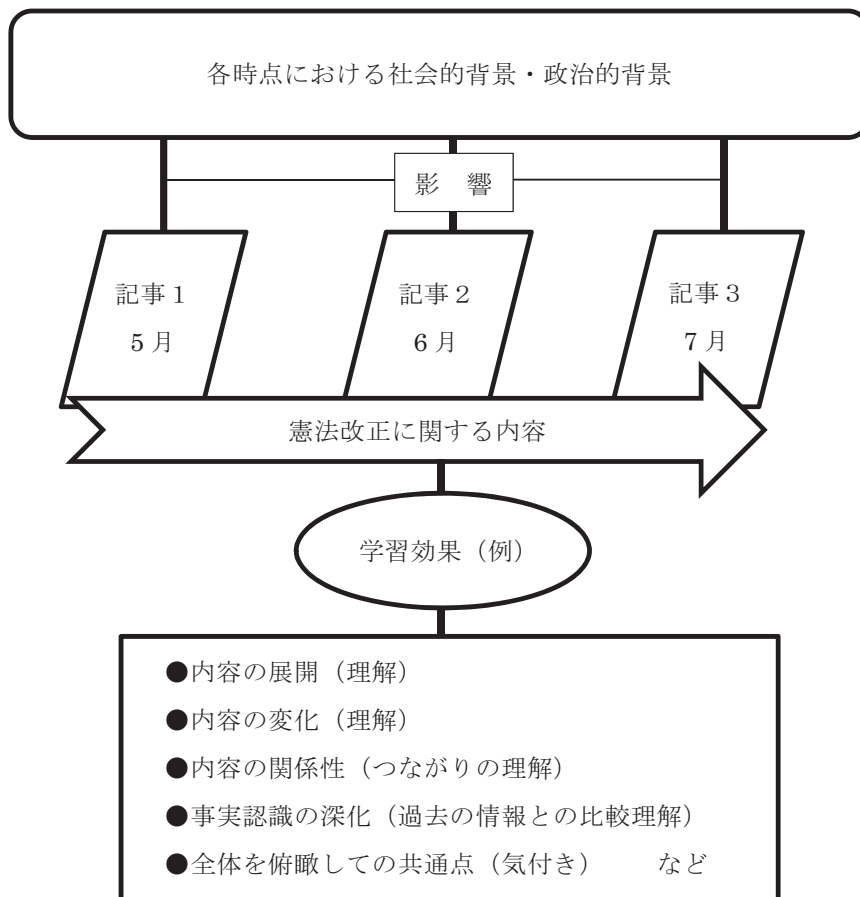


図5 学習効果 (例) の構造

文献

- 菊地達夫 (2017) : 保育者・教員養成課程における18歳選挙権を考える授業の工夫とその効果－日本国憲法の新聞活用の授業を通じて－, 群馬社会科教育研究, 5, pp.57-62.
- 菊地達夫・高橋さおり (2016) : 保育者養成課程における新聞活用の授業実践と効果－保育内容環境の授業を事例として－, 北翔大学北方圏学術情報センター年報第8号, pp.31-38.
- 橋本由美子 (2012) : 幼稚園教員養成における教職の意義並びに内容を学生に実感させる授業のあり方, 浦和論叢第46号, pp.89-105.
- 徳田悦子・前田 稔 (2011) : 学校図書館司書教諭の授業を核とする教員養成大学における新聞活用教育－モデルカリキュラムの開発・実施と評価－, 日本教育学会第70回大会, pp.174-175.